未来への投資、そして誓い

福岡教育大学附属福岡中学校３年　　畑瀬　由衣

サンフランシスコ空港から、飛行機の機体は空高く上がった。一週間の思い出が脳内を駆け巡る。窓の外に広がる三月の青空とカリフォルニアの景色に向かって「絶対ここに戻ってくる」と、心の中で宣言した。

初めての海外、アメリカでの一週間は、私の人生史上最も価値のある一週間だった。単なる旅行ではなく、私の住む飯塚市のグローバル人材育成研修事業で行かせていただいたものだ。この事業では、研修に参加する中高生二十人に対して、一人当たりの総経費約五十万円の内、三十五万円、つまり七十パーセントもの金額を市が負担してくれる。もちろんこの負担額は、市民からの税金で成り立つ。

そのような税金に支えられた今回の研修に、私は人一倍強い思いがあった。理由は私の将来の夢にある。それはチャイルド・ライフ・スペシャリストという、医療環境にある子どもに、心理社会的支援を提供する専門職に就くこと。その資格は北米の大学でしか取得出来ないため、高校卒業後にアメリカの大学に進学することが私の目標だ。そのようなアメリカはいつも私の胸の中で憧れの場所として輝いていたが、その地を自分の目で見たことはまだ無かった。それがとうとう、税金という支援を受けて今回実現したのだ。

シリコンバレーの企業やスタンフォード大学の見学、現地の中学校への登校など研修中の貴重な経験の数々。現地の学生と言葉の壁を越えて笑い合えた時の喜び。本物の家族のような愛をくれたホストファミリーとの出会い。これほど中身が濃く、一瞬一瞬が一生の思い出になるような経験は他になかったのではないか。研修中の何もかもが最高だった。そして、現地の生の英語に触れたことで、大学進学までに対等にコミュニケーションを取れる英語力を習得するという目標も生まれた。

だが、どうして市は税金を使って私たち中高生に、ここまで支援をしてくれたのだろうか。私は『未来への投資』だと思う。これからの国や市を担っていく中高生の夢への、期待と応援を込めて。税金を納める一人一人の市民が夢への後押しをしてくれているのだ。

税金の必要性やその負担の大きさについて批判的な声をよく耳にする。しかし、そんな人々に知ってほしい、あなたの納める税金が、一人の中学生の人生に大きく影響する未来への投資になったということを。税金は、決して無駄ではないということを。

四年後、アメリカの大学へ、この地へと戻ってこよう。未来の私への投資で得た全ての経験は、生涯忘れることはないだろう。これから一生懸命勉強して、市や国を支えられる人になることで、間接的にでも、私をアメリカに行かせてくれた全ての人に、恩返しができたらいいなと思う。

そしてこの「未来への投資」に恥じぬ人間になることを、私は全ての納税者へと誓う。